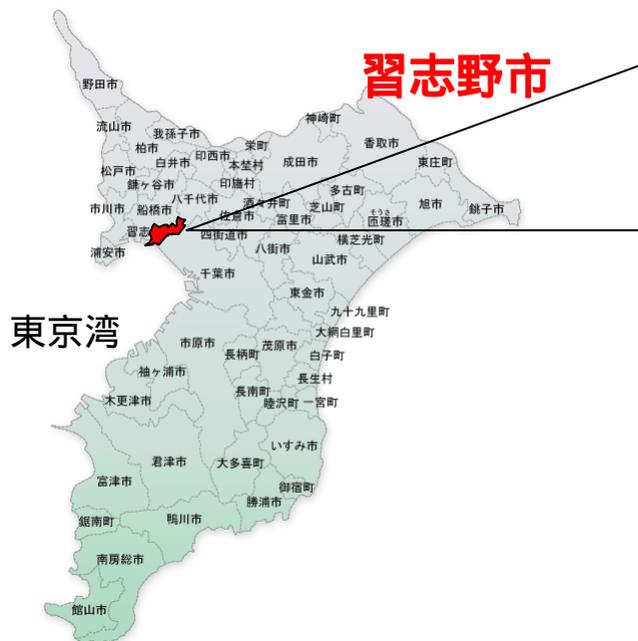


習志野市公共下水道事業
事業再々評価
(印旛処理区)

平成 20 年 11 月
千葉県習志野市

習志野市の概要

習志野市は、千葉県北西部に位置し、都心へのアクセスが良好で、首都圏のベッドタウンとして発展している。市の西部には、谷津干潟があり、都市と身近な自然との共生を目標としている。



事業の必要性(印旛処理区)



東京湾:習志野市芝園付近

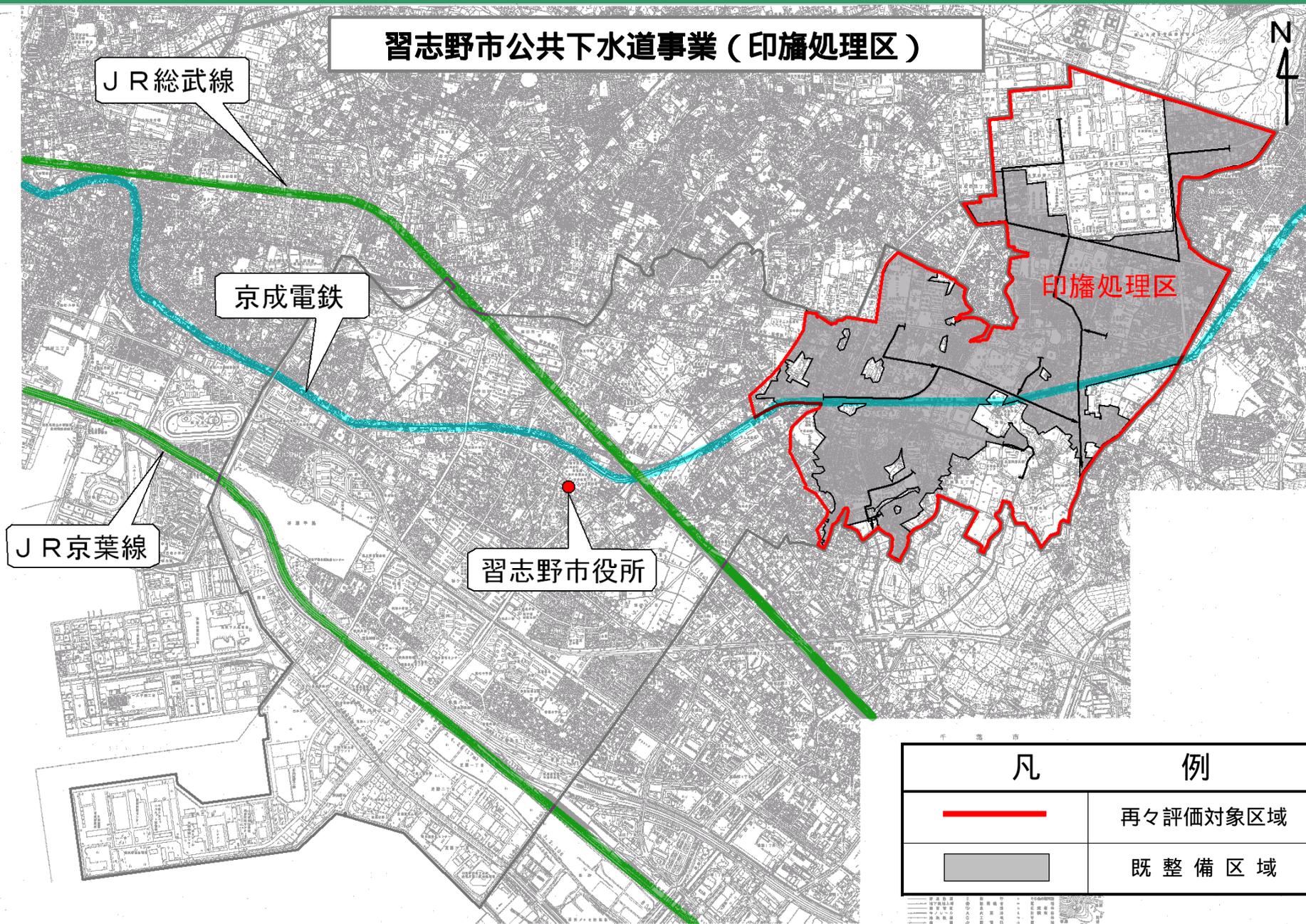
【汚水】

生活環境の改善

東京湾の富栄養化防止

事業の概要 (印旛処理区)

習志野市公共下水道事業 (印旛処理区)



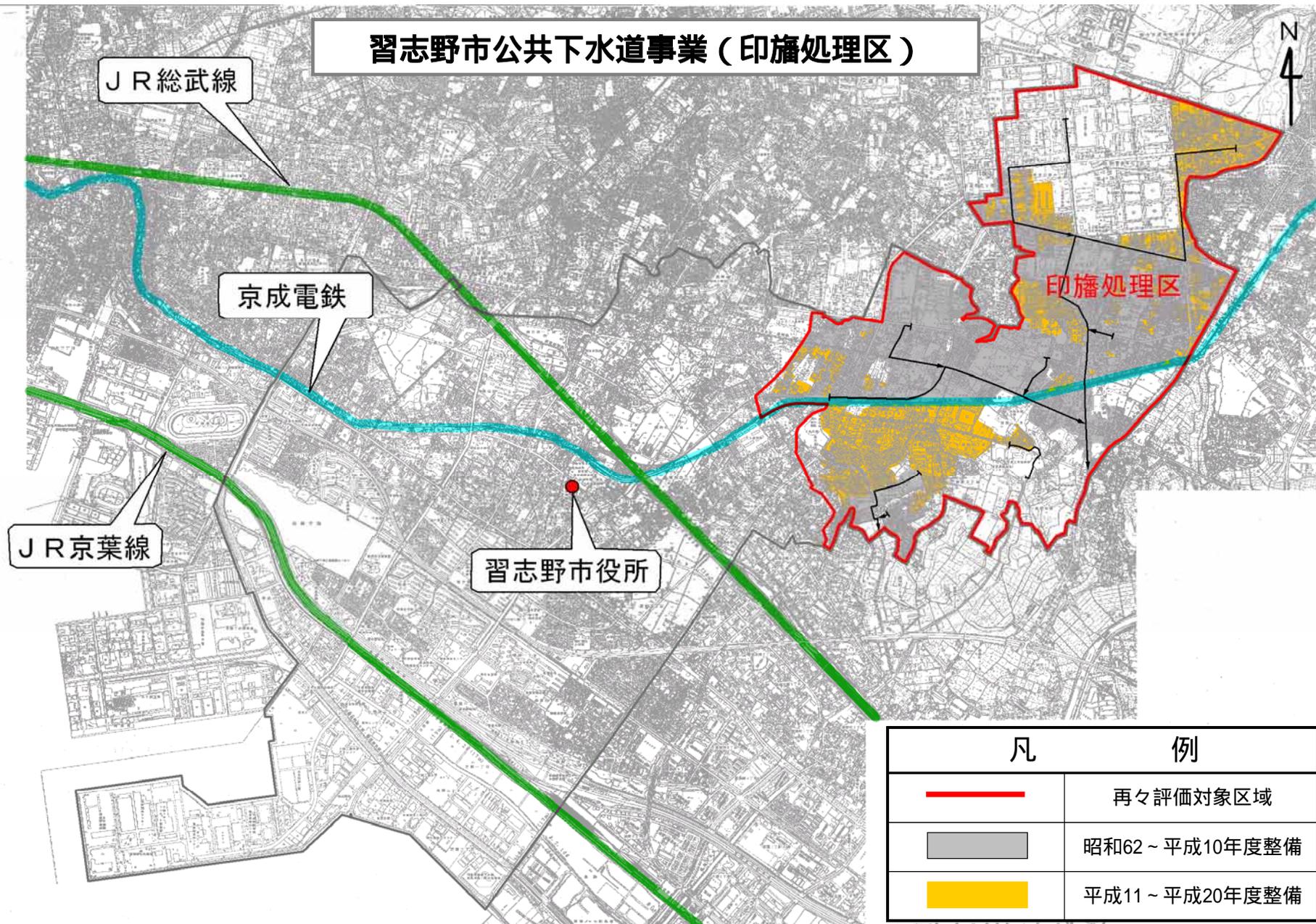
指標1 費用効果分析（印旛処理区）

総便益 (B)	982億円
総費用 (C)	537億円
費用便益比 (B / C)	1.8

指標2 事業の進捗状況(印旛処理区)

指標	状況
事業の進捗状況	平成20年度末時点の整備面積見込みは、事業計画473haに対して、407haを整備し、整備率は86%である。
供用開始区域の接続状況	接続率は92%である。
地元情勢等	習志野市議会の理解及び地元住民の協力は得られている。

指標2 事業の進捗状況(印旛処理区)



指標3 社会経済情勢等(印旛処理区)

指 標	状 況
社会経済情勢	下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特にない。
自然環境条件	水質汚濁に係わる水質環境基準の新たな設定等,下水道事業に影響のある要因はない。
計画変更の有無及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

指標4 コスト縮減・代替案(印旛処理区)

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤砕石等再生資材の利用及び小型マンホールの利用によりコスト縮減に努めている。
代替案	本市の市街化の状況から、代替としての浄化槽整備よりも、下水道整備が最適。

対応方針(印旛処理区)案

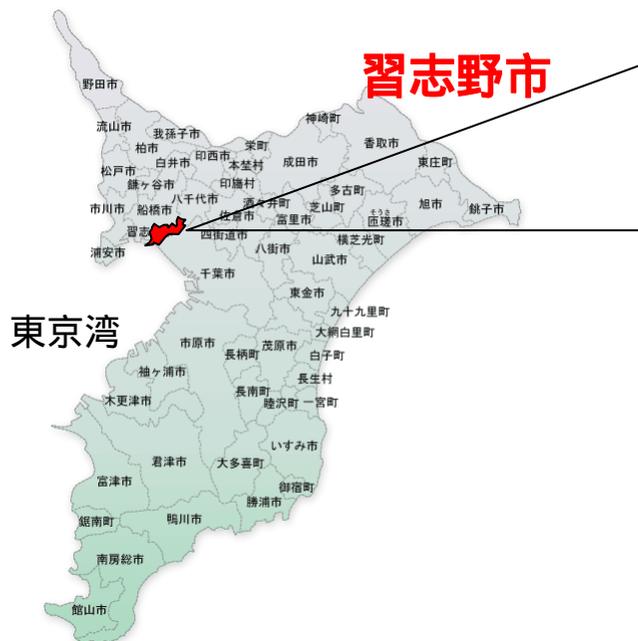
習志野市公共下水道事業は、順調に進展しており、今後も順調な進展が見込まれることから、当事業を継続していく方針です。

習志野市公共下水道事業
事業再々評価
(津田沼処理区)

平成 20 年 11 月
千葉県習志野市

習志野市の概要

習志野市は、千葉県北西部に位置し、都心へのアクセスが良好で、首都圏のベッドタウンとして発展している。市の西部には、谷津干潟があり、都市と身近な自然との共生を目標としている。



事業の必要性(津田沼処理区)



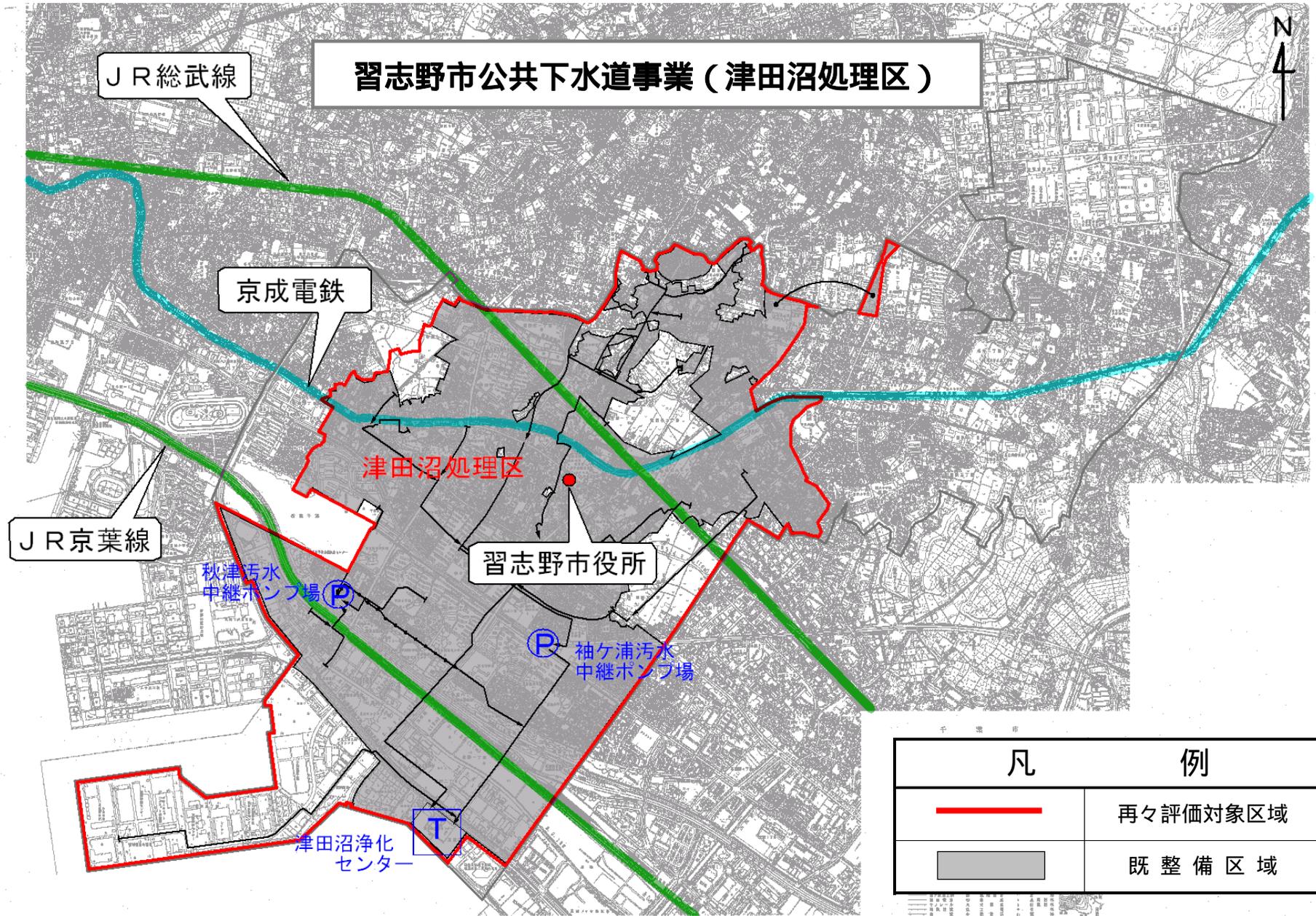
生活環境の改善
東京湾の富栄養化防止
谷津干潟の保全
浸水の防除

東京湾:習志野市芝園付近



ラムサール条約登録湿地
谷津干潟

事業の概要 (津田沼処理区)



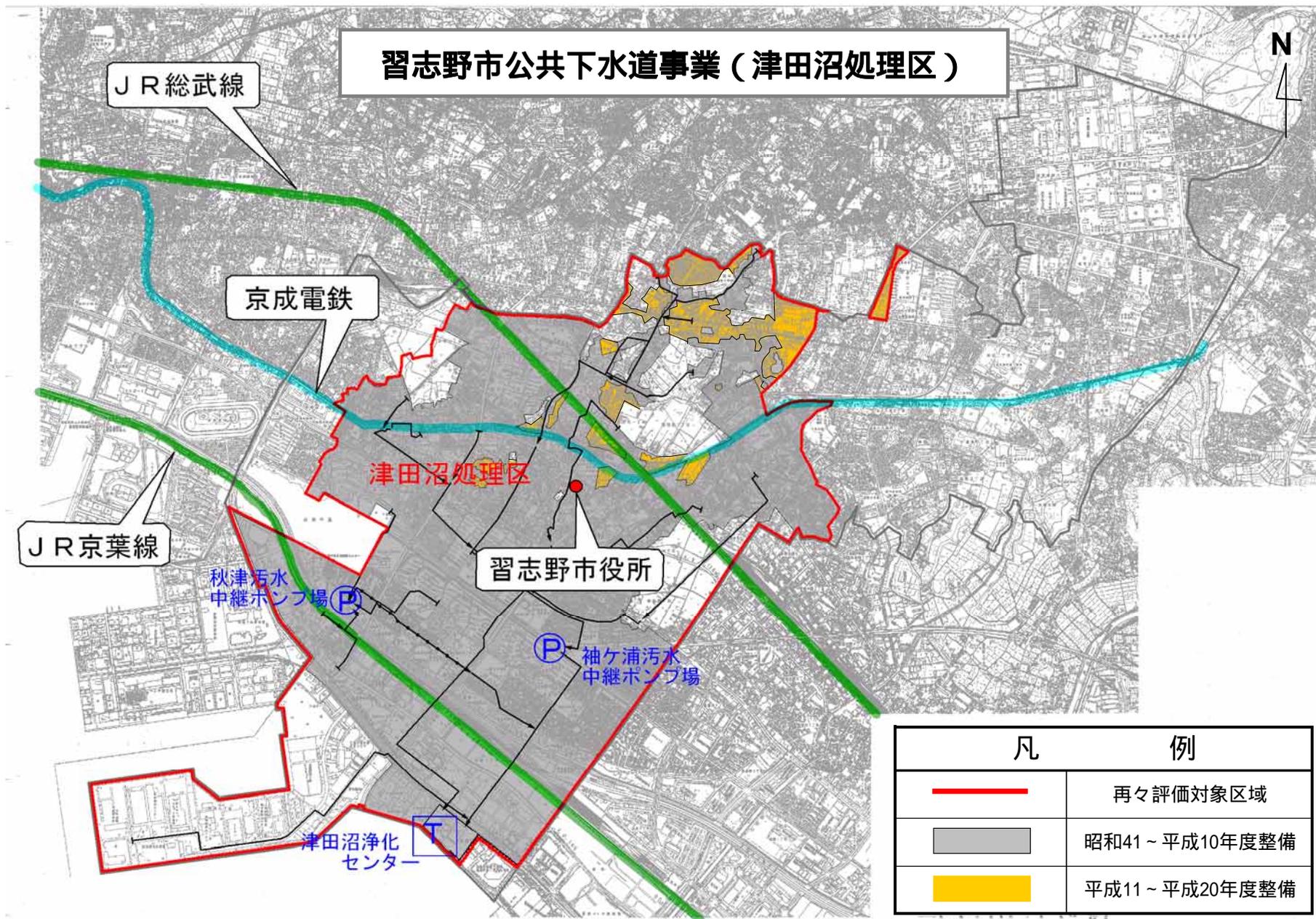
指標1 費用効果分析（津田沼処理区）

総便益 (B)	4,494億円
総費用 (C)	2,165億円
費用便益比 (B / C)	2.1

指標2 事業の進捗状況(津田沼処理区)

指標	状況
事業の進捗状況	平成20年度末時点の整備面積見込みは、事業計画1,014haに対して、963haを整備し、整備率は95%である。
処理場用地の取得状況	全用地を取得済みである。
処理施設の供用状況	事業計画の処理能力80,640m ³ /日に対し、59,640m ³ /日を整備済みであり、整備率は74%である。
供用開始区域の接続状況	接続率は98%である。
地元情勢等	習志野市議会の理解及び地元住民の協力は得られている。

指標2 事業の進捗状況(津田沼処理区)



指標3 社会経済情勢等(津田沼処理区)

指 標	状 況
社会経済情勢	下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特にない。
自然環境条件	水質汚濁に係わる水質環境基準の新たな設定等,下水道事業に影響のある要因はない。
計画変更の有無及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

指標4 コスト縮減・代替案(津田沼処理区)

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤砕石等再生資材の利用及び小型マンホールの利用によりコスト縮減に努めている。 処理場では、省エネルギー化に資する施設の整備を推進し、施設の品質向上を図りコスト縮減に努める。
代替案	本市の市街化の状況から、代替としての浄化槽整備よりも、下水道整備が最適。

対応方針(津田沼処理区)案

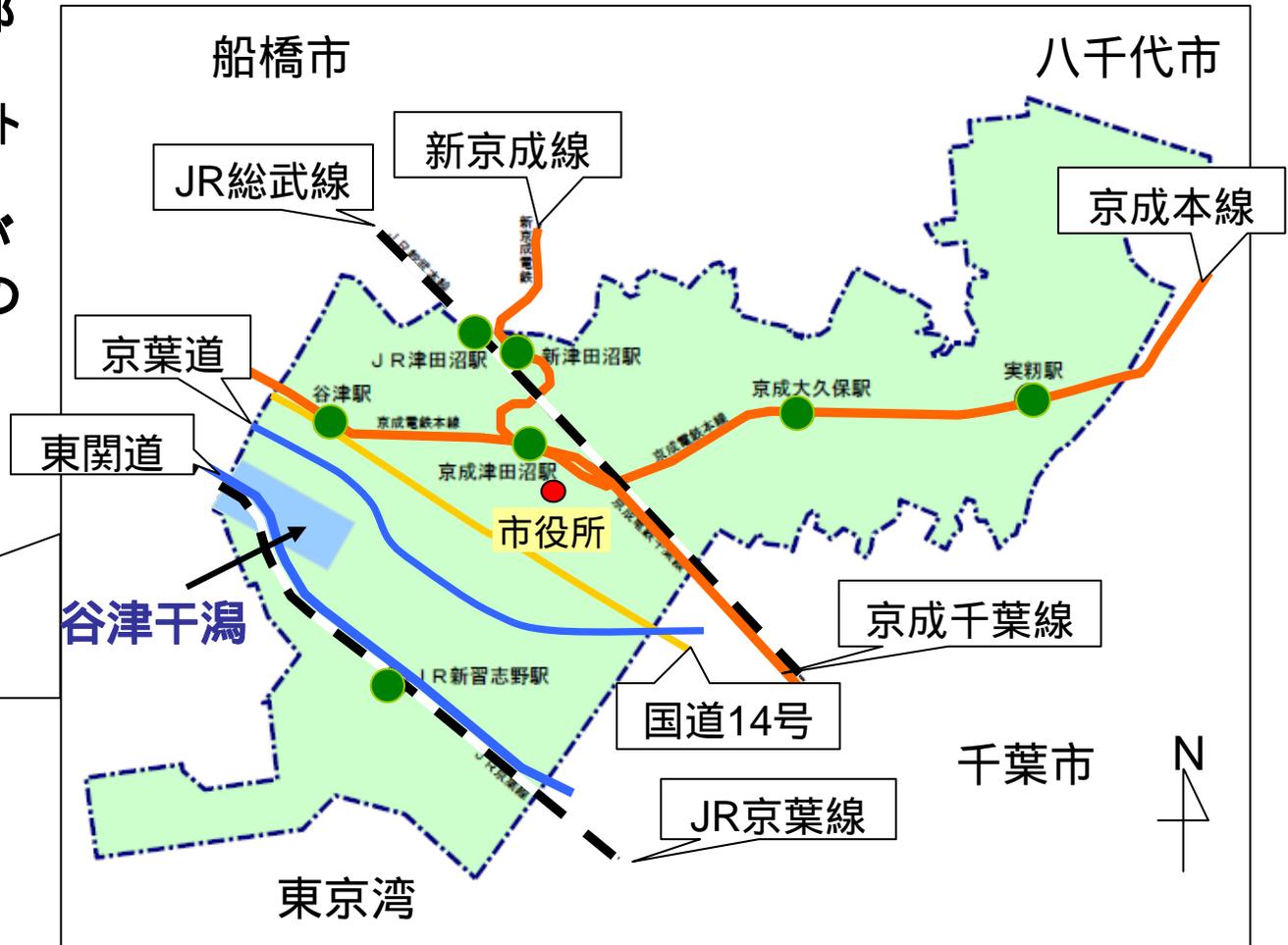
習志野市公共下水道事業は、順調に進展しており、今後も順調な進展が見込まれることから、当事業を継続していく方針です。

習志野市公共下水道事業
事業再々評価
(雨水)

平成 20 年 11 月
千葉県習志野市

習志野市の概要

習志野市は、千葉県北西部に位置し、都心へのアクセスが良好で、首都圏のベッドタウンとして発展している。市の西部には、谷津干潟があり、都市と身近な自然との共生を目標としている。

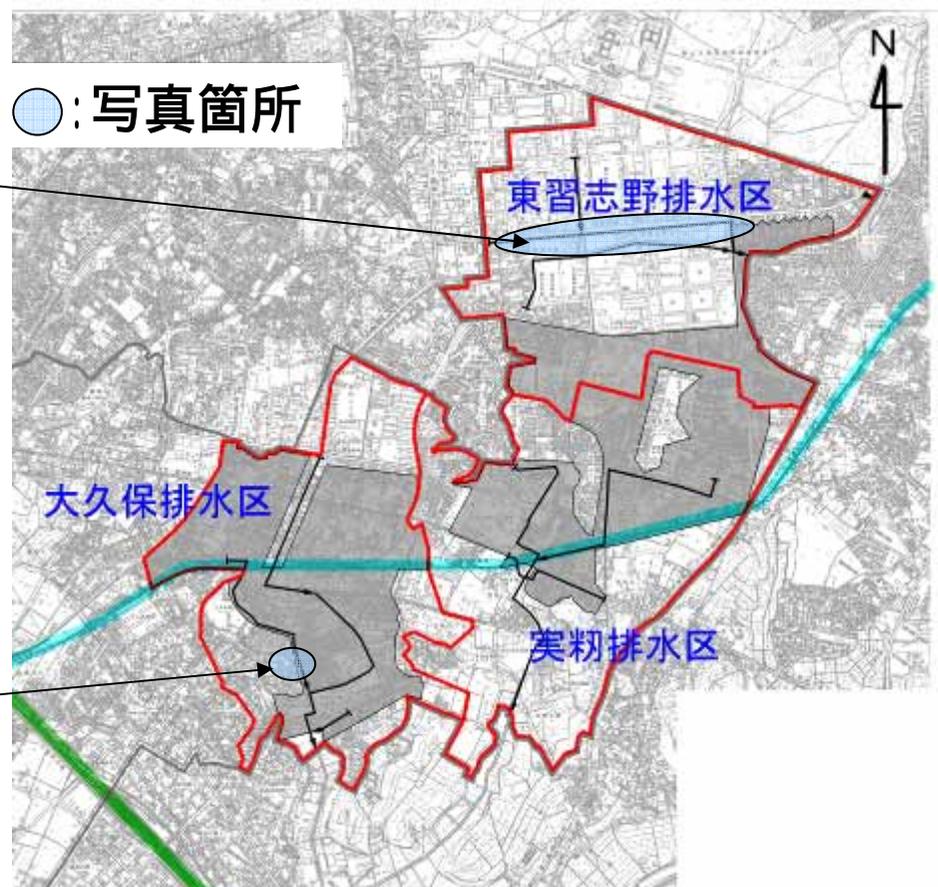


事業の必要性(雨水)

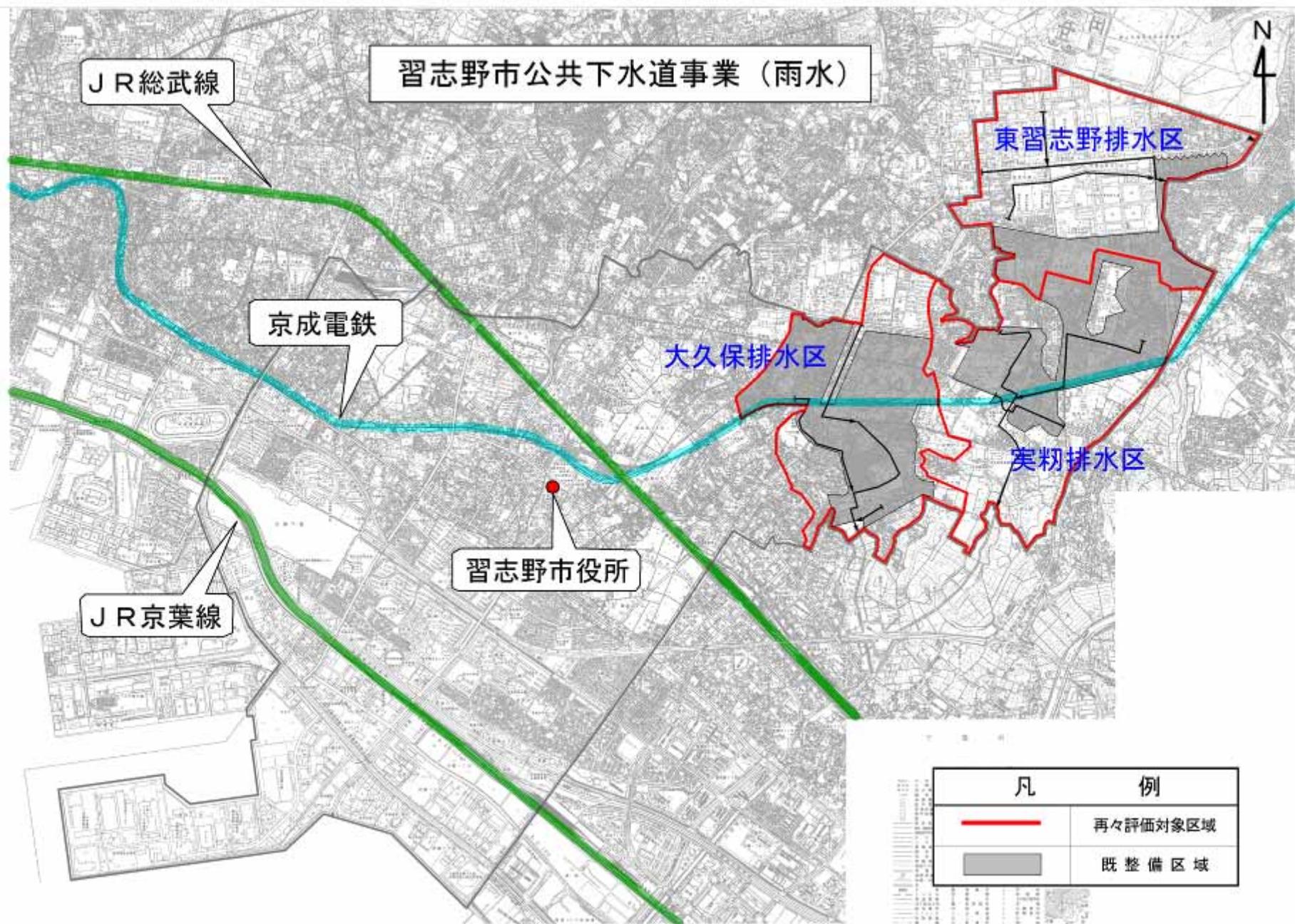


【雨水】

浸水による被害から住民の安全と財産を守る



事業の概要(雨水)



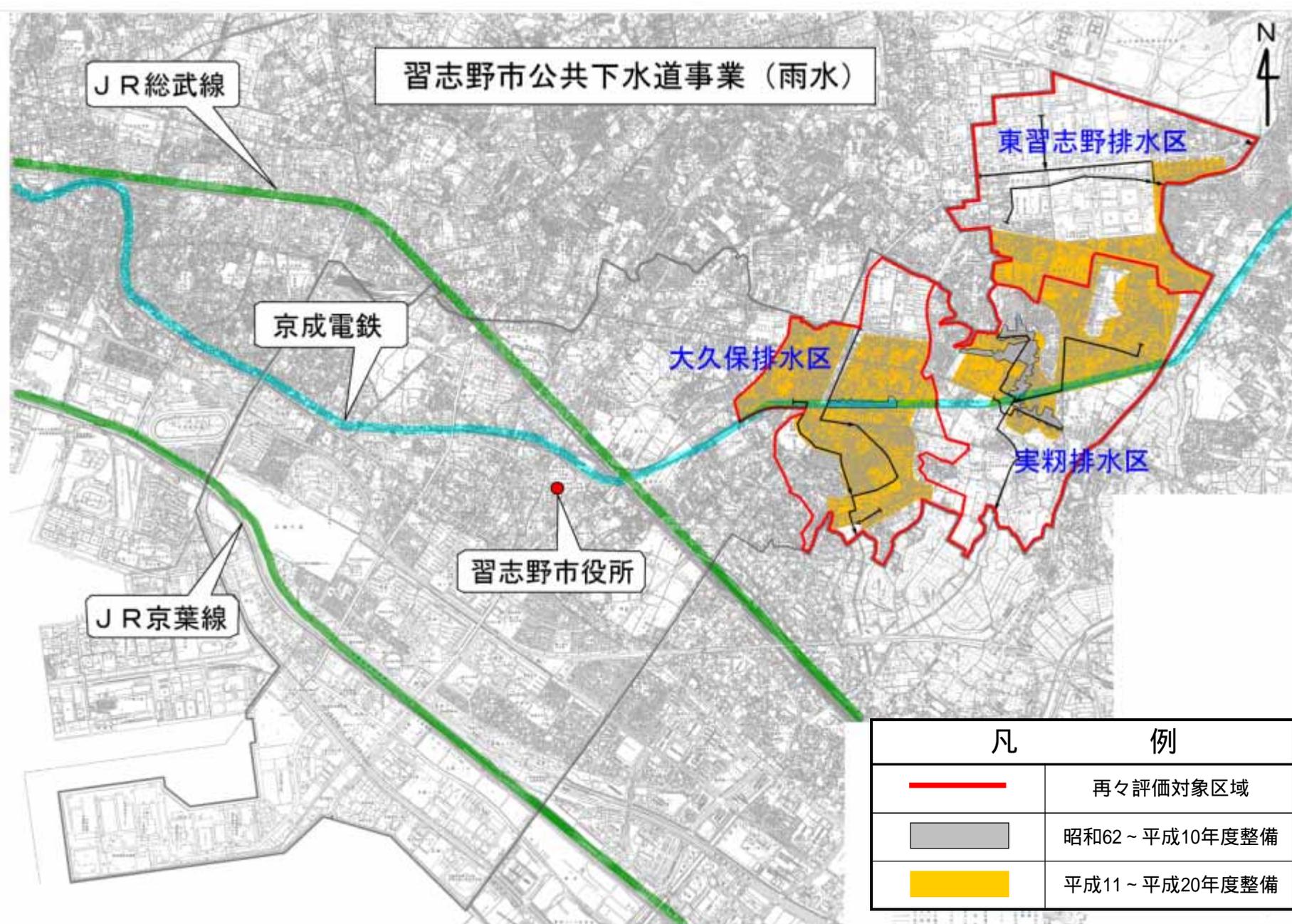
指標1 費用効果分析（雨水）

総便益 (B)	385億円
総費用 (C)	122億円
費用便益比 (B / C)	1.7 ~ 5.1

指標2 事業の進捗状況(雨水)

指標	状況
事業の進捗状況	平成20年度末時点の整備面積見込みは、事業計画450haに対して250haを整備し、整備率は56%である。
地元情勢等	習志野市議会の理解及び地元住民の協力は得られている。

指標2 事業の進捗状況(雨水)



指標3 社会経済情勢等(雨水)

指 標	状 況
社会経済情勢	新たな開発等もなく、下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特にはない。
計画変更の有無及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

指標4 コスト縮減・代替案(雨水)

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤碎石等再生資材の利用によりコスト縮減に努めている。

対応方針(雨水)案

習志野市公共下水道事業は、今後も整備が必要とされることから、当事業を継続していく方針です。